

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- (1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付ける。
  - ア 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取組みを推進する。
  - イ 1人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。  
※生徒向け授業アンケートにおける「授業の進度や難易度」の肯定率を2020年度には95%とする。(平成29年度88%)  
※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」の肯定率を2020年度には85%とする。(同上78%)  
※教員向け学校教育自己診断における「授業改善」の肯定率を2020年度には95%とする。(同上88%)  
※生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率を2020年度には80%とする。(同上67%)

## 2 キャリア教育及び進路指導の充実

- (1) 将来の自立や社会参加につながるキャリア教育や進路実現につながる進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。
  - ア 1人ひとりの生活の背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導の強化を図る。
  - イ 経営者や地域の人材、卒業生、大学や専門学校の職員などの講演を通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。
  - ウ 教育課程に位置付けたキャリア教育科目を通して、良き社会人として素養を身に付けさせる。
  - エ 1人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。  
※生徒向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を2020年度には90%とする。(平成29年度80%)  
※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を2020年度には80%とする。(同上65%)  
※生徒向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を2020年度には95%とする。(同上81%)  
※保護者向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を2020年度には95%とする。(同上82%)  
※進学や就職希望のある卒業予定生徒へのアンケートでの満足度を2020年度には100%とする。(同上91%)  
※学校斡旋の就職内定率を2020年度には95%とする。(同上93%)

## 3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

- (1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。
  - ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。
  - イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。  
※生徒向け学校教育自己診断における項目「学校行事」の肯定率を2020年度には90%とする。(平成29年度76%)  
※教員向け学校教育自己診断における項目「主体的な活動の支援」の肯定率を2020年度には80%とする。(同上67%)  
※生徒向け学校教育自己診断における「挨拶の励行」の肯定率を2020年度には90%とする。(同上74%)
- (2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。
  - ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
  - イ 支援や指導が必要な生徒に適切な対応を行うことができるよう、生徒支援体制を充実する。  
※生徒向け学校教育自己診断における項目「人権学習」の肯定率を2020年度には90%とする。(平成29年度73%)  
※教員向け学校教育自己診断における項目「人権教育の推進」の肯定率を2020年度には90%とする。(同上79%)

## 4 学校運営体制の確立及び人材の育成

- (1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。
  - ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営の確実な定着をめざす。
  - イ 各組織間の連携を密にし、会議等の精査を行い、校務の効率化を図る。  
※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を2020年度には80%とする。(平成29年度63%)  
※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を2020年度には80%とする。(同上42%)
- (2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。
  - ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマン・セミナー」の実施や教員の自主研修を実施し、人材の育成を図る。

☆ これらの取組を通して、単位修得率の向上を図り、卒業生数の増加をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]   | 学校運営協議会からの意見  |
|--|---|
| <p>【学校】《》内は肯定率<br/>生徒：学校は、定通就学奨励費、教科書給付・夜食給食援助制度・奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる。《83.2%》<br/>保護者：学校は、進路に関して、家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。《85.0%》<br/>教職員：学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。《100%》</p> <p>【教育活動】<br/>生徒：教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。《84.1%》<br/>保護者：学校は、子どもに命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている。《94.7%》<br/>教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。《100%》</p> <p>◎生徒や保護者への情報提供とやり取りを示す項目が高い値を示した。日ごろから教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることが評価されたものと捉えられる。「教育活動に対する項目」では、授業の工夫や取組みに関して生徒と教職員の値が高かった。保護者については、上記の値に加えて、就職や生徒指導の方針についても高い肯定率（85%）を示しており、本校での教育内容を肯定的に捉えている様子が見える。保護者との連携を取りながら、引き続き進めていきたい。</p> | <p>【第1回】平成30年7月4日（水）<br/>○学校経営計画について<br/>・「フレッシュマン・セミナーにおいて、今年は授業中心に進めることになっているが、初任期の教員の生徒や保護者との関係作りについてはどのように考えているか」との質問があり、「先輩や他の教員に気軽に相談できるような体制を整えている」と回答。きめ細やかな人材育成に期待したいとの意見をいただく</p> <p>【第2回】平成30年12月21日（金）<br/>○学校経営計画の進捗状況<br/>・SSW等外部人材の活用について「広域である高校での成果を聞きたい」との質問有り。「教員があまり気づかないポイントを指摘してもらえることで、生徒に対する接し方や見方が変わってきた。「こういう外部機関に相談できる」という手段を教員に教えてもらえるだけでも教員としては非常に助かっている」と回答。<br/>・「チーム学校のモデル的なことを実践しておられると思う。外部人材の活用とともに、教員の人数も維持してもらい、良い教育を維持していただきたい」と激励の言葉をいただく</p> <p>【第3回】平成31年2月1日（金）<br/>○H30学校経営計画及び学校評価（案）並びにH31学校経営計画（案）について<br/>・「時代の変化があるがどのような生徒に来てほしいと思っているか」「『わかる授業』という表現がいい。生徒の実態を細かく見ていただきたい」との質問意見があった。「『不登校経験』『編転入』『夜間学級卒業』など、多様な生徒の学び直しの受け皿になればいいと考えている。学校教育自己診断等で実態把握を行う」と回答<br/>・協議の結果、「H30学校経営計画及び学校評価」「H31学校経営計画」の「めざす学校像」と「中期的目標」について承認いただいた</p> |

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                    | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容  | 評価指標   | 自己評価  |
|--------------------------|--|--|--|---|
| 1<br>確かな学力の育成及び教員の授業力の向上 | <p>(1)「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした授業改善への取組みの推進</p> <p>ア 「授業改善推進チーム」を中心とした桃谷スタンダード（授業モデル）の徹底</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用した組織的な取組みの実施</p> <p>ウ 「学習環境」を確保するための授業規律の確立</p> | <p>(1)</p> <p>ア・「授業改善推進チーム」が中心となり、各教科で作成した桃谷スタンダードに基づいた研究授業や校内研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T・Tを積極的に取り入れ生徒の個々の状況に応じた学習を支援する。</li> </ul> <p>イ・研究授業や公開授業期間を前期・後期にそれぞれ設定し、教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による授業アンケート結果を踏まえた教員の個別面談を実施し、授業者にフィードバックする。</li> </ul> <p>ウ・全教員がスマートフォン使用や私語などの指導の共通認識を深め、指導の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業集中キャンペーン」を継続的に実施し、「授業規律」に対する生徒の意識向上を図る。</li> </ul>   | <p>(1)</p> <p>ア・桃谷スタンダードに基づいた研究授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率65% (H29:58%)</li> <li>・教員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率65% (H29:58%)</li> </ul> <p>イ・教員相互の授業見学を2回以上実施し全教員が各授業観察シートを提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率90% (H29:88%)</li> <li>・管理職による授業観察を2回以上、教員の個別面談を2回以上実施</li> </ul> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率75% (H29:67%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、新たな啓発ポスターを作成し、校内掲示に努める。</li> </ul>  | <p>(1)</p> <p>ア・フレッシュマンセミナーで授業づくりの研修を行い11月の授業相互見学期間に対象者が授業を公開。初任者は別途研究授業と研究協議を実施し、その後の授業につなげた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率60%、教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率63%。いずれも昨年度より上昇するが、目標には到達せず、一層の授業改善を進める必要がある(△)</li> <li>・教職員向け学校教育自己診断「教育課程や教育計画の作成について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率63% (H29:46%)、「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率が92% (H29:72%)と教育課程や授業方法等についての意識は高まっている。一層の授業改善に努める。</li> </ul> <p>イ・11月に授業見学を実施。全教員が2回以上授業見学を行い、授業観察シートを提出(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率79%。(△)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による授業観察、個別面談は計画通り実施。(○)</li> </ul> <p>ウ・生徒保健部が中心となり、授業規律の向上に努めた。生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率69%。昨年度より上昇するが目標に到達せず。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のポスターは実施できず。(△)</li> </ul> |
| 2<br>キャリア教育及び進路指導の充実     | <p>(1)キャリア教育や進路指導推進のためのカウンセリング及びガイダンス機能の充実</p> <p>ア 生徒の生活の背景から理解した支援・指導の強化</p> <p>イ キャリアカウンセラーなど外部講師を活用した生徒一人ひとりの将来像の確立</p> <p>ウ 生徒・保護者への適切な進路情報の提供</p>            | <p>(1)</p> <p>ア・家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問や懇談週間を設定した生徒懇談などを通して生徒理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席の生徒について、家庭訪問の充実を図り、個々の状況の把握に努める。</li> <li>・SCやSSWとの連携を充実し、外部機関を活用した生徒支援を実施する。</li> <li>・SCやSSWを講師とした教員対象の校内研修の充実を図る。</li> </ul> <p>イ・キャリアカウンセラーを活用するなど、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導などを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアカウンセラーを講師とするなど進路指導に関する教員研修を充実させる。</li> </ul> <p>ウ・進路HRや個人面談などにおいて、個々に応じた進路情報を生徒及び保護者に積極的に提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路便りやⅢ部独自の進路指導室での指導を充実させるとともに、校内掲示板やHPなどを有効に活用し、情報の見える化を図る。</li> </ul> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒の個別懇談の年2回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率85% (H29年:80%)</li> <li>・教員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率100% (H29:96%)</li> <li>・SC10回以上、SSW20回以上の活用 (H29:10回、23回)</li> </ul> <p>イ・キャリアカウンセラーの活用10回以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率80% (H29:73%)</li> <li>・教員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率85% (H29:79%)</li> <li>・学校斡旋の就職内定率80%以上 (H29:93%)</li> </ul> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率85% (H29:81%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率95% (H29:81%)</li> </ul> | <p>(1)</p> <p>ア・担任・進路部等で複数回面談を実施し、学校生活の安定や進路に向けた取組につなげた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率78%、教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率91%で、いずれも昨年度より少し低下。教員の意識が低下している点について改善が必要。(△)</li> <li>・今年度は予算の枠いっぱいまで活用してSC10回、SSW18回。生徒の様々な課題に対して適切に対応いただいた。また教職員にも新しい気付きが生まれ、生徒支援に役立った。(○)</li> </ul> <p>イ・キャリアカウンセラーを16回活用し、進路説明会や個別の進路相談、進路指導を行い、全体の進路指導を充実させた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、4年間を見通した進路指導計画を立てて実施した。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率76%、教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率80%。いずれも昨年度より上昇したが、目標には到達せず。(△)</li> <li>・学校斡旋の就職内定率100%。(◎)</li> </ul> <p>ウ・進路だよりを8回、卒業生の声をたよりとして4回を発行した。保護者対象進路説明会も実施したが、生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率76%、保護者向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率80%と結果につながらず。周知方法について、再検討を行う。(△)</p>   |

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

|                                    |  |  |  |  |
|------------------------------------|--|--|--|--|
| <p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p> | <p>(1) 特別活動や生徒会活動を通した生徒の自己肯定感・有用感の醸成と居場所づくり<br/>ア 学校・クラスなどへの帰属意識の向上</p> <p>イ 行事や生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援</p> <p>ウ 人間関係形成能力を育成するための「挨拶運動」の実施</p> <p>(2) 生命の尊さに気づかせ自己を認める態度や人格の育成<br/>ア 様々な人権問題の解決をめざした総合的な人権教育の推進<br/>イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p> | <p>(1)<br/>ア・生徒の学校への帰属意識が高まるよう総合学習やLHRの実施方法・内容を改善する。<br/>イ・多くの生徒が参加できるよう、遠足など学校行事の実施方法を工夫する。<br/>・始業式や生徒集会などにおいて「部活動紹介」や「各種大会・発表会の受賞者紹介」を積極的に行う。<br/>ウ・校内において教員が挨拶を励行し、登下校時の「挨拶運動」に取り組む。</p> <p>(2)<br/>ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。<br/>・合格者説明会、受講指導等を利用し、本名指導をする。<br/>イ・日常的に安全指導の充実を図り、災害時の避難行動について理解できるよう、実践的な避難訓練の実施を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。</p> | <p>(1)<br/>ア・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率70% (H29:64%)<br/>・LHRで清掃活動を実施。<br/>イ・生徒の意見を踏まえ、遠足の実施を平日の昼間に変更する。<br/>・生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率80% (H29:76%)<br/>・教員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率85% (H29:79%)<br/>ウ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率80% (H29:74%)</p> <p>(2)<br/>ア・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率90% (H29:73%)<br/>・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率85% (H29:77%)<br/>イ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率90% (H29:73%)</p> | <p>(1)<br/>ア・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率67%。昨年度より上昇しているが目標には到達せず。(△) 保護者向け学校教育自己診断「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定率67% (昨年度より4%増)。<br/>・考査前のLHRで清掃活動を実施。(◎)<br/>イ・生徒の意見を踏まえ、遠足を平日に変更し、5月11日(金)に実施。(◎)<br/>・生徒会を中心に体育祭や文化祭を実施。今年度初めてクラスマッチ(球技大会)も実施。生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率79%。(○)<br/>・新入生オリエンテーションでクラブ紹介を実施。加入率は低いものの、軟式野球部やバスケットボール部など顕著な成績を修めるが、教職員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率79%と昨年度と同じ。(△)<br/>ウ・登下校時に教員が玄関付近に立ち、挨拶運動を実施した。挨拶だけでなく、気になる生徒に声をかけるなど、有効に活用している。生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率80%。(○)</p> <p>(2)<br/>ア・人権HRを計画通りに実施。体験型の学習を取り入れるなど、方法に工夫を行った。生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率77%、生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率80%。昨年度より上昇するが目標には到達せず。(△)<br/>・保護者向け学校教育自己診断「学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」の肯定率85% (H29:70%)。<br/>イ・地震と火災を想定した避難訓練を各1回実施した。生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率75%。昨年度より上昇するが目標には到達せず。掲示物の作成等改善策を検討中。(△)<br/>・保護者向け学校教育自己診断「地震や台風などに対する、あるいは防犯上の行動マニュアルが、子どもや保護者に知らされている」の肯定率75% (H29:65%)。</p> |
| <p>4 学校運営体制の確立及び教職員の資質向上</p>       | <p>(1) 学校運営体制の確立及び教職員の資質向上<br/>ア 運営委員会を学校運営の核とした学校運営の確実な定着<br/>イ 分掌等組織の会議の充実と組織間の連携を図った校務の効率化</p> <p>(2) 次代を支える教員(ミドル・若手教員)の育成<br/>ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマン・セミナー」の実施や校外研修成果の共有化</p>  | <p>(1)<br/>ア・学校組織の位置付けについて周知を図り、組織的な運営の重要性の理解を深める。<br/>イ・分掌部会や年次会、委員会などの意見を組織間において迅速な情報共有に努め、会議の効率化を図る。</p> <p>(2)<br/>ア・管理職や中堅教員が講師となり初任者も含め4年目までの教員を対象とした「フレッシュマン・セミナー」を開催し、人材の育成を図る。<br/>・校外研修を受講した教員による他の教員へ研修成果を伝達し、情報の共有化を図るための機会を設定する。</p>  | <p>(1)<br/>ア・教員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率60% (H29:42%)<br/>イ・教職員向け学校教育自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率70% (H29:63%)</p> <p>(2)<br/>ア・「フレッシュマン・セミナー」の開催<br/>・教員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率85% (H29:79%)</p>   | <p>(1)<br/>アイ<br/>・週日程で会議を定例化。年次や分掌での議論を踏まえ、運営委員会を経て職員会議で意見交換、共通理解を図った。教職員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率75%、「分掌や年次の連携」の肯定率71%といずれも昨年度に比べ大幅に上昇。(◎)</p> <p>(2)<br/>ア・首席が中心となり企画し「フレッシュマン・セミナー」を計画通り8回実施(予定を含む)。講師は准校長3回、教頭1回、首席4回。対象者以外の自主的な参加もあった。(◎)・校外での希望研修等に積極的に参加を促した。悉皆研修も含め全体化すべきものについて、職員会議で研修報告を11回実施。初任者を含め経験年数の少ない教員も報告を行う。教職員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率96%と昨年度に比べ大幅に上昇。(◎)</p>   |